

2022年5月28日(土)

ニラバラン観察会

ニラバランという植物をご存じでしょうか？小さくて目立たないラン科の植物なのですが、実は山口県の絶滅危惧ⅠB類に指定されている貴重な植物なのです。それが園内では山口県屈指の生息地になっているので、貴重なニラバランとともに、他の植物も観察して歩きました。



講師として、秋吉台地域エコツアーインタープリターの中沢妙子さんをお招きしました。植物のスペシャリストです。



外に出る前に少しだけお勉強。ニラバランの特徴とともに、保全についても説明しました。今回はその他の植物も観察します。



植物はそこら中に生えているので、観察に困りません。雑草とひとくくりになっている小さな植物にも、もちろん名前があります。



地面に目を凝らすと、目立たない植物たちが見えてきます。見過ごしがちの植物たちにもスポットを当て、観察しました。



南側の園路に着くと、道端にニラバランが見えてきます。



堤防近くに行くと、白と赤の美しい花が咲いていました。



これはマンテマ。どちらも色違いの同じ種です。



ニラバランは汽水池横の草地にたくさん生えています。



ニラバランは背丈が低く、周りの草に埋もれるように生えていることが多いので、視線を低くすると、驚くほどたくさん見えてきます。たくさん生えていて、うっかりすると踏んでしまうほど。



草地の中にはノウサギの糞が。夜に来ているようです。



水際の石垣には塩性植物のウシオツメクサが生えています。



最後は、昨年園内に侵入したセイヨウヒキヨモギを見ました。



昨年は2~3株でしたが、一年で10倍以上に増えました。

貴重なニラバランはたくさん観察でき、その他の植物のこともたくさん知ることができました。ニラバランが多いのは、草刈りで最適な環境が維持されているからなのです。